

駒澤大学 長山宗広

世田谷におけるアントレプレナーシップと 地域づくり

－新時代の自治体産業政策－

第5回世田谷区基本計画審議会
テーマ別意見交換③

【世田谷を安全で一層魅力的なまちにするための必要な政策】
資料3 「現時点での基本計画大綱イメージ」に関して

2023.1.16

危機の時代とパラダイムシフト論

世界金融危機を経て、

『ポスト資本主義社会』（ドラッカー, 1993）

『21世紀の資本』（ピケティ, 2014） 『脱成長』（ラトウーシュ, 2010）

日本国内では人口減少社会を迎えて、

『定常型社会』（広井, 2001）

『田園回帰』（小田切ほか, 2016）、『ローカル志向』（松永, 2015）

デジタルエコノミー、GAFAプラットフォーム支配のもと

『WTF経済』（オライリー, 2019）

『シェア』（ボッツマン他, 2016）

『サーキュラーエコノミー』（レイシー&ルトクヴィスト, 2019）

地球規模の危機を再認識し、

『人新世の「資本論」』（斎藤, 2020） 『新世紀の Kommunismus へ』（大澤, 2021）

『マルクスとアソシエーション』（田畑, 2015）

『ニュー・アソシエーションニスト宣言（柄谷, 2021）』

コロナ禍でより浮き彫りに

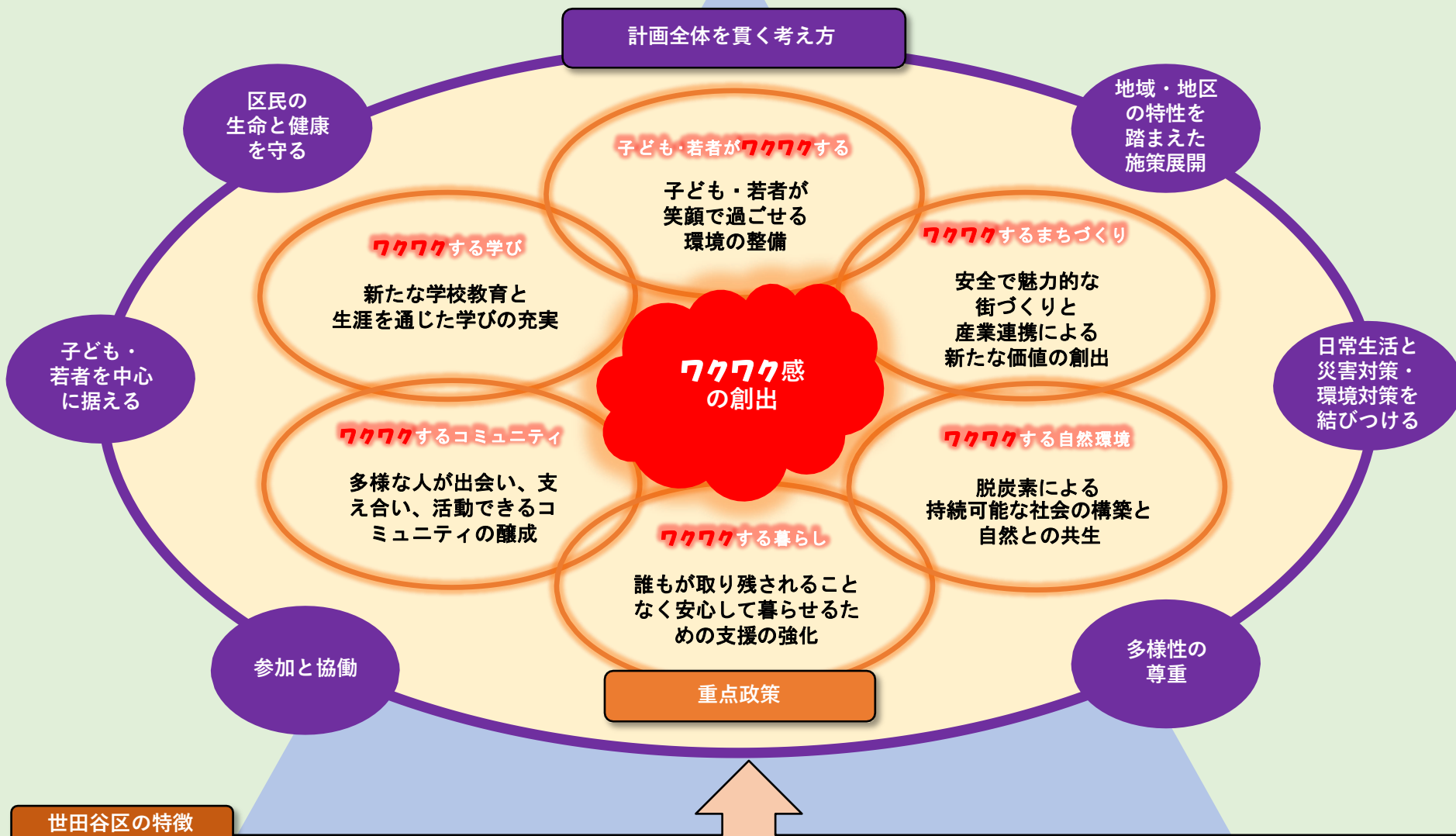
『コロナ禍における個人と企業の変容』（樋口, 2021）

⇒ **VUCA(変動性・不確実性・複雑性・曖昧性)の時代**

<論点>

・重点政策をつなぐ共通の理念(コンセプト)「ワクワク感の創出」とは？

・6つの重点政策(「子ども・若者」「学び」「コミュニティ」「暮らし」「自然環境」「まちづくり」)をどのように、つなぐか？



世田谷区の特徴

区民参加の風土

町会・自治会を中心とするコミュニティ活動

豊富な地域人材・地域資源

多様なつながり

豊かな自然環境・良好な住環境

活気ある商店街・魅力的なビジネス環境

ワクワクするまちづくり

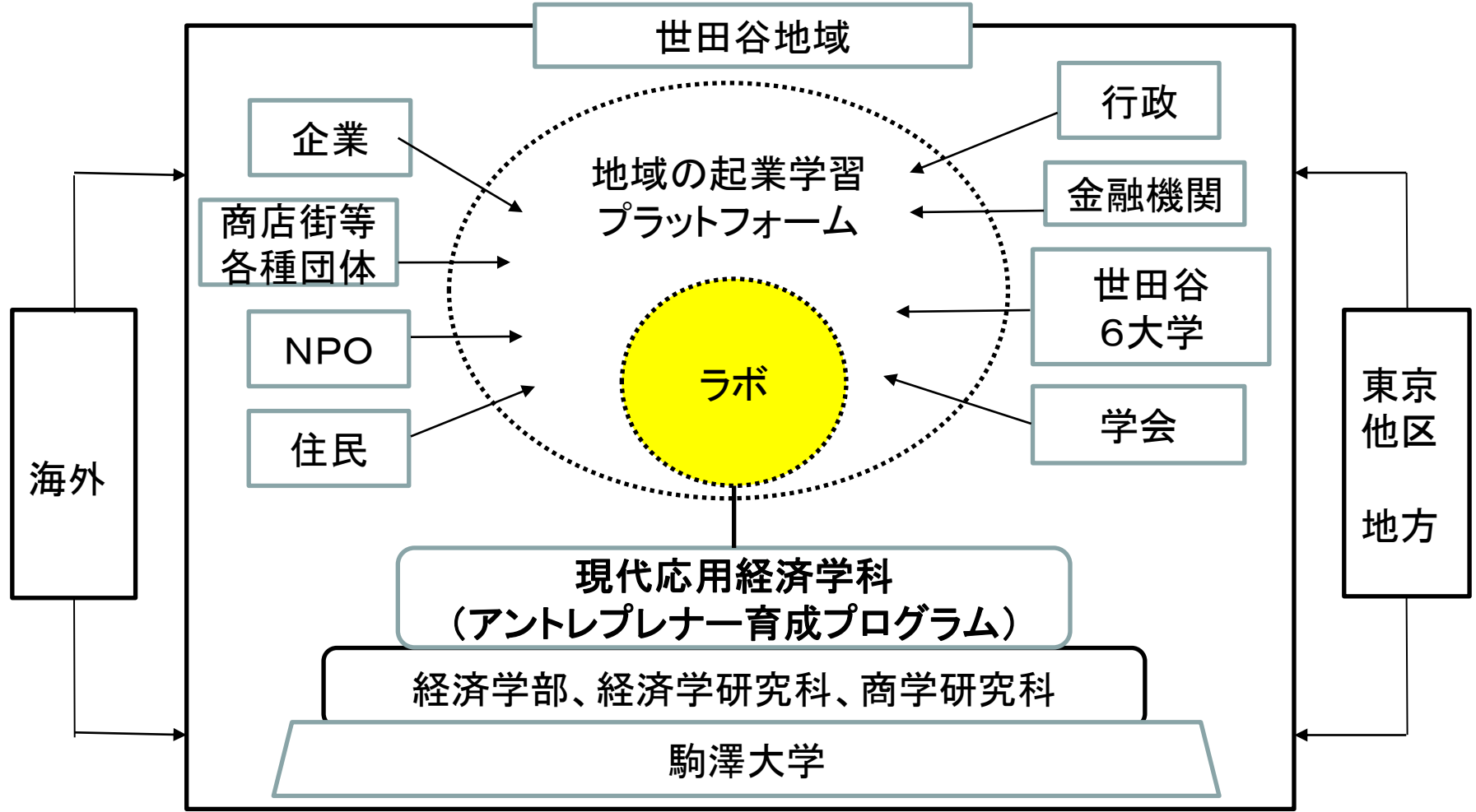
(6) 安全で魅力的な街づくりと産業連携による新たな価値の創出

- 災害に強く安全で、区民が快適に暮らせる街づくりに向け、区民の生活を支える都市基盤の整備は不可欠なものとなっている。社会インフラの計画的な維持・更新に取り組むとともに、建物の耐震化や不燃化、避難路の整備、豪雨対策などを着実に進めていく。
- 今後の人口減少社会を見据え、人を惹きつけ、誰もが住んでみたいと思える街づくりを進める必要がある。三軒茶屋、下北沢、二子玉川駅周辺の広域生活・文化拠点をはじめとする街づくりにおいて、地域特性を活かした魅力と活力のある都市の創出を目指す。また、既存施設等を総点検し、官民連携による柔軟な発想で都市のストックの有効活用を図り、区民ニーズを捉えた多世代が交流する場や誰もが親しめる空間の創出を図るなど、歩いて楽しい街づくりに取り組む。
- コロナ禍以降、デジタル化、リモートワークが進み、職住が一体となりつつあり、住んでいる生活の中に「働く」ということが真ん中に入ってきている。区民の生活をベースとする起業や創業も既に区内ではかなり見受けられており、事業所や企業による既存産業の振興に加え、区民も産業振興の主体に含め、地域社会の課題を解決するコミュニティビジネスやソーシャルビジネスの振興にも取り組む。
- 今般の地域課題は非常に多様化しており、その解決の担い手となる地域人材、起業家の輩出、育成は非常に重要である。多様な人がいて、多様な地域課題があることは、一方でビジネスチャンスも多様にあると捉えることもできるため、創業機運の醸成や新たなビジネス創出の場として魅力的な環境の整備を進める。

事例①:「ワクワク感の創出」

「アントレプレナーシップ」とは、「実際に何もなかったところから価値を創造するプロセス」のこと。通俗的にはアントレプレナーシップを「起業家精神」と訳すことが多い。ここでは、起業家の個人特性やメンタリティを含めた「行動やプロセス」という実践的意味で使うので、「起業活動」と訳す。また、起業活動の担い手をアントレプレナーと呼ぶ。アントレプレナーは、際立った個人特性がなかったとしても、経験や実践を通じた「起業学習」によって輩出・育成が可能。

<駒澤大学ラボラトリ>
アントレプレナーシップ(起業活動)を軸に置き、教員・学生と学内外の多様な関係者が協働し、オープンな連携のもとで研究・教育・地域貢献を融合させる。「地域の起業学習」プラットフォームのエンジンを目指す。



アントレプレナー交流会 15分近隣の起業学習コミュニティ

下北沢



シモキタステーション

用賀



amigo

千歳烏山



おへそカフェ

祖師ヶ谷大蔵



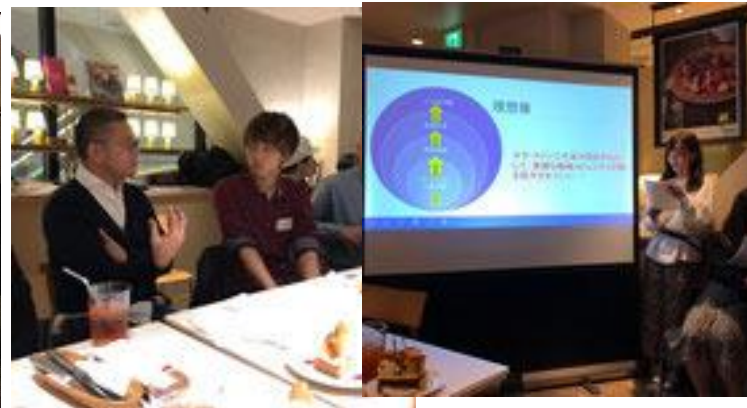
アトリエそら豆

深沢



深沢の台所

二子玉川



ラ・メゾン(玉川高島屋店)

池尻



世田谷ものづくり学校

松陰神社



みんなのジッカ

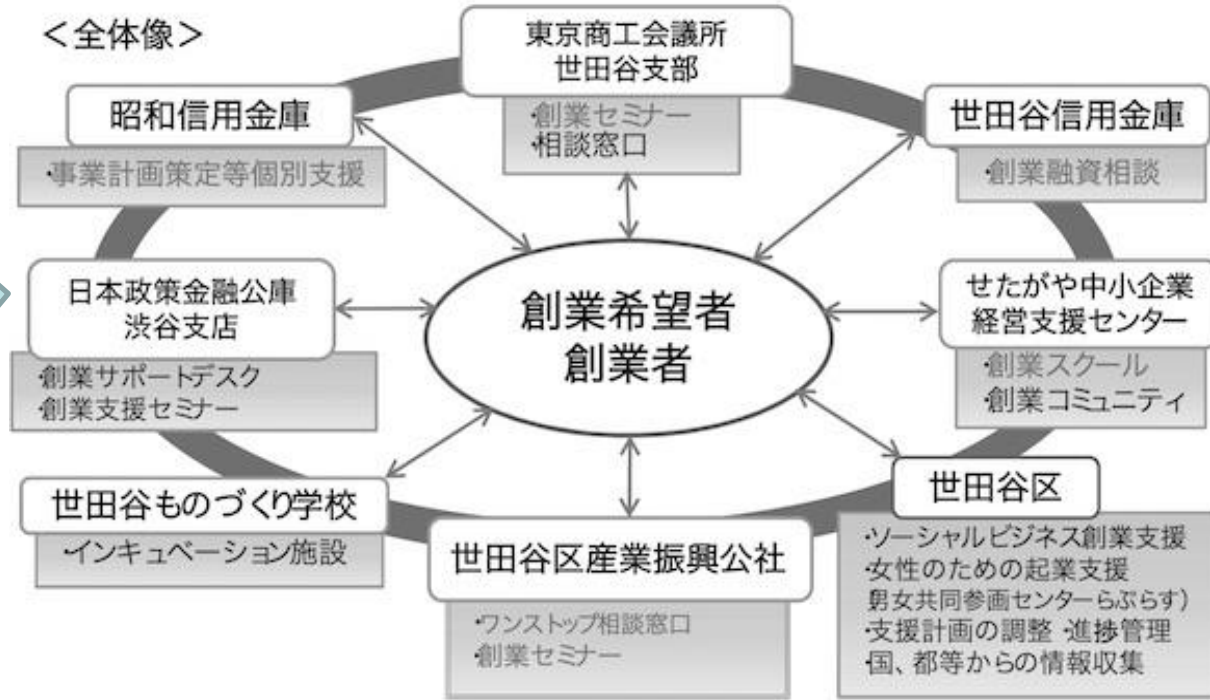
駒澤大学ラボの「創業機運醸成事業」の特徴

- ・世田谷と関係のある人ならば誰でも参加可能
 - ・①起業無関心な学生や住民等、②起業希望者、③起業準備者、④起業家、の各ステージに位置する人が、**テーマに共感して集まり、つながり、共に学ぶ** →身近なロールモデルと段階的な起業学習
 - ・起業に無関心な人にも参加しやすいテーマ(例:まちづくり)
 - ・知識のない人でも参加が可能(ブレストやWS)
 - ・世田谷区内の各地域に起業学習の拠点(アントレプレナー交流会)を形成→「地域」は空間(space)ではなく場所(place)。感情やロイヤリティ、「参加」することが学習・実践コミュニティ
 - ・地域社会の諸課題を解決、多様なプロジェクト(イベント企画や商品開発など)を多数実施。起業学習の実践・アントレプレナー育成
 - ・世田谷区内の既存創業支援機関とのネットワーク
- 地域(基礎自治体のローカル・コミュニティエリア)における主体形成**
起業無関心者に対する機運醸成によりアントレプレナーの裾野を拡大

世田谷区のアントレプレナー支援の仕組み

世田谷区 創業支援機関ネットワーク

<全体像>



創業無関心者

駒澤大学(現代応用経済学科ラボラトリ)
「創業機運醸成」のプラットフォーム

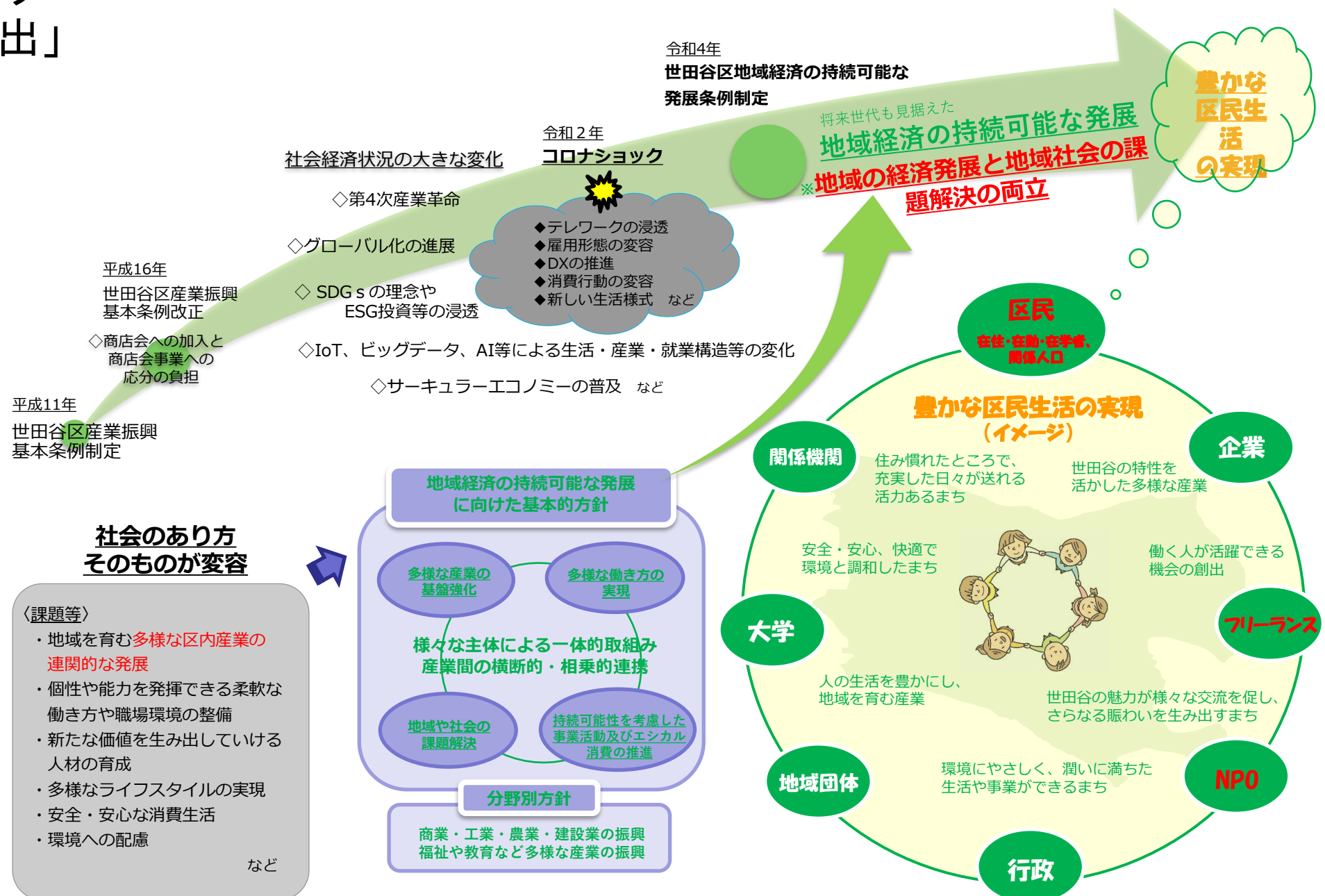
オンラインサロン



世田谷区内外の多様な企業・スタートアップ・フリーランス・プロボノ・大学・金融機関など異業種の方々が交流し、継続的に交流するオンラインの溜まり場

事例②:「ワクワク感の創出」 世田谷区産業振興基本条例の改正：地域経済社会の持続可能な発展イメージ

事例②:「ワクワク感の創出」



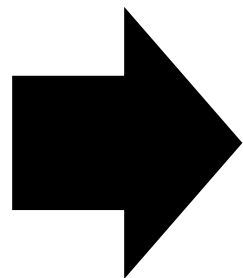
(出所)世田谷区経済産業部の作成資料

地域商店街活性化法(2009年)の概要

特定の産業(例:小売商業)の振興・ターゲティングから転換
⇒新しいミッション型の産業政策へ

➤法律制定の目的

商店街を支援することにより、中小の小売商業者やサービス業者を振興するとともに、地域住民の生活利便の向上や住民間の交流に役立つ活動を活発化させることを促し、地域コミュニティの担い手としての役割を強める。この為、本法を制定し、ソフト事業等の商店街活動への支援の強化、空き店舗対策の強化、人材育成の支援など、全国的な見地から総合的な商店街支援措置を講ずる。



地域の住民と起業家のコミュニティ
アントレプレナーシップ(起業活動)の苗床

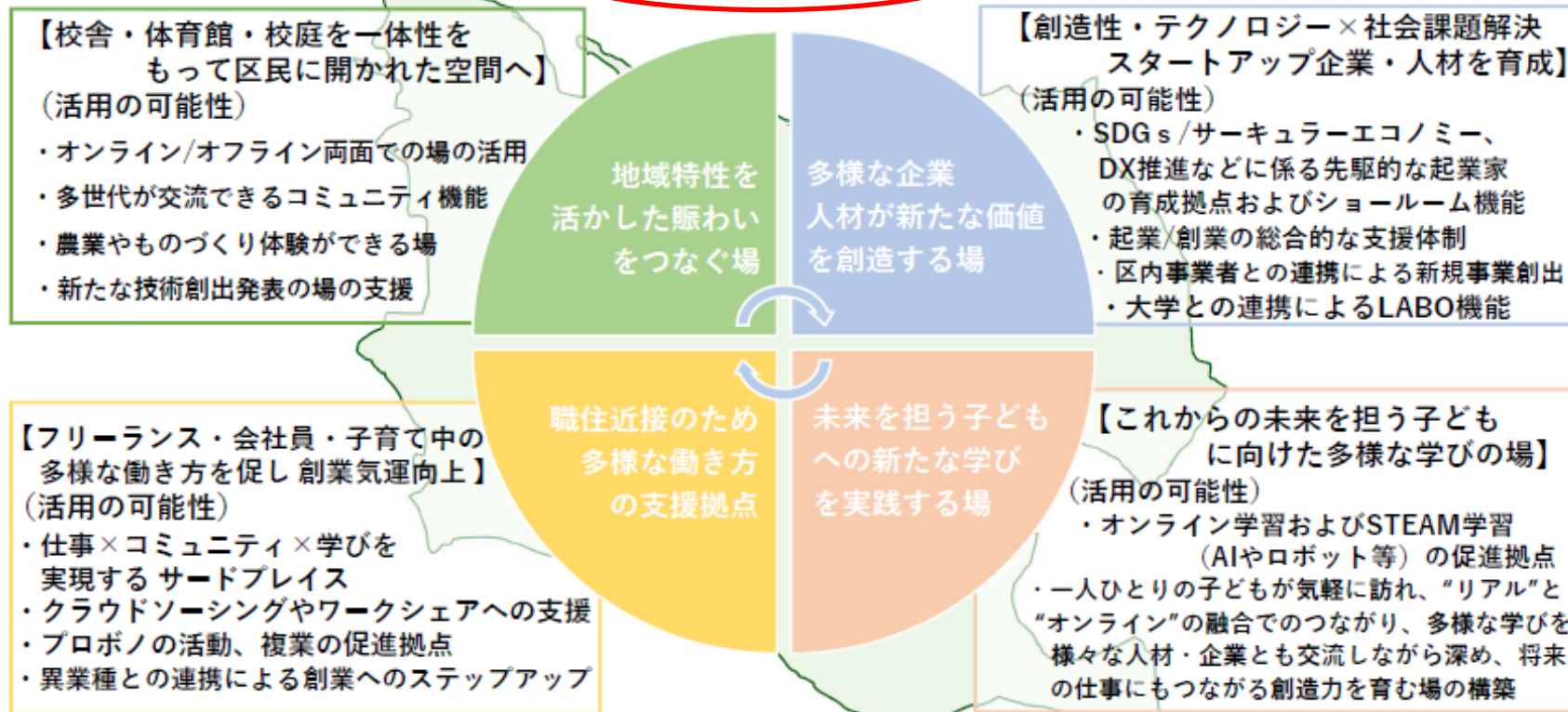
「小さなまちの拠点」
(資料5, 地域コミュニティ関連資料)。
公共施設: 区民センター等、学校、出張所、まちづくりセンター、福祉施設、子ども関連施設)
公共施設以外: 地域支え合い活動拠点、町会・自治会、飲食店など店舗、宗教施設、集合住宅、個人宅
⇒商店街もその一つ

ポスト「世田谷ものづくり学校」(新たな産業・学び・コミュニティづくりの拠点)

- 世田谷ものづくり学校は、廃校となった旧池尻中校舎を活用したインキュベーション施設として、H16年開設。起業・創業支援をはじめ、入居事業者間の交流等を通じて地域との交流を行うコミュニティの場としての発展。
- 一方、社会課題を創造性やテクノロジーで解決する人材の育成、STEAM教育やSDGs等に関する学びの場など、新たな課題に取り組む必要が生じており、新たな産業・学びの拠点を目指す。令和5年秋頃の新施設開設を予定。

■基本コンセプト

コロナ禍により社会が大きく変化していく中で、社会課題を創造性とテクノロジーを用いて解決する起業家を育成するとともに、未来の産業を担う人づくりに向けた取組みを実施し、多様な人材が交流連携するプラットフォームによる『コレクティブインパクト』を実現していく。



『コレクティブインパクト』とは、特定の社会課題に対して、ひとつの組織の力で解決しようとするのではなく、行政、企業、NPO、基金、市民などがセクターを越え、互いに強みやノウハウを持ち寄って、同時に社会課題に対する働きかけを行うことにより、課題解決や大規模な社会変革を目指すアプローチのこと(John Knaia, & Mark Kramaer,2011)

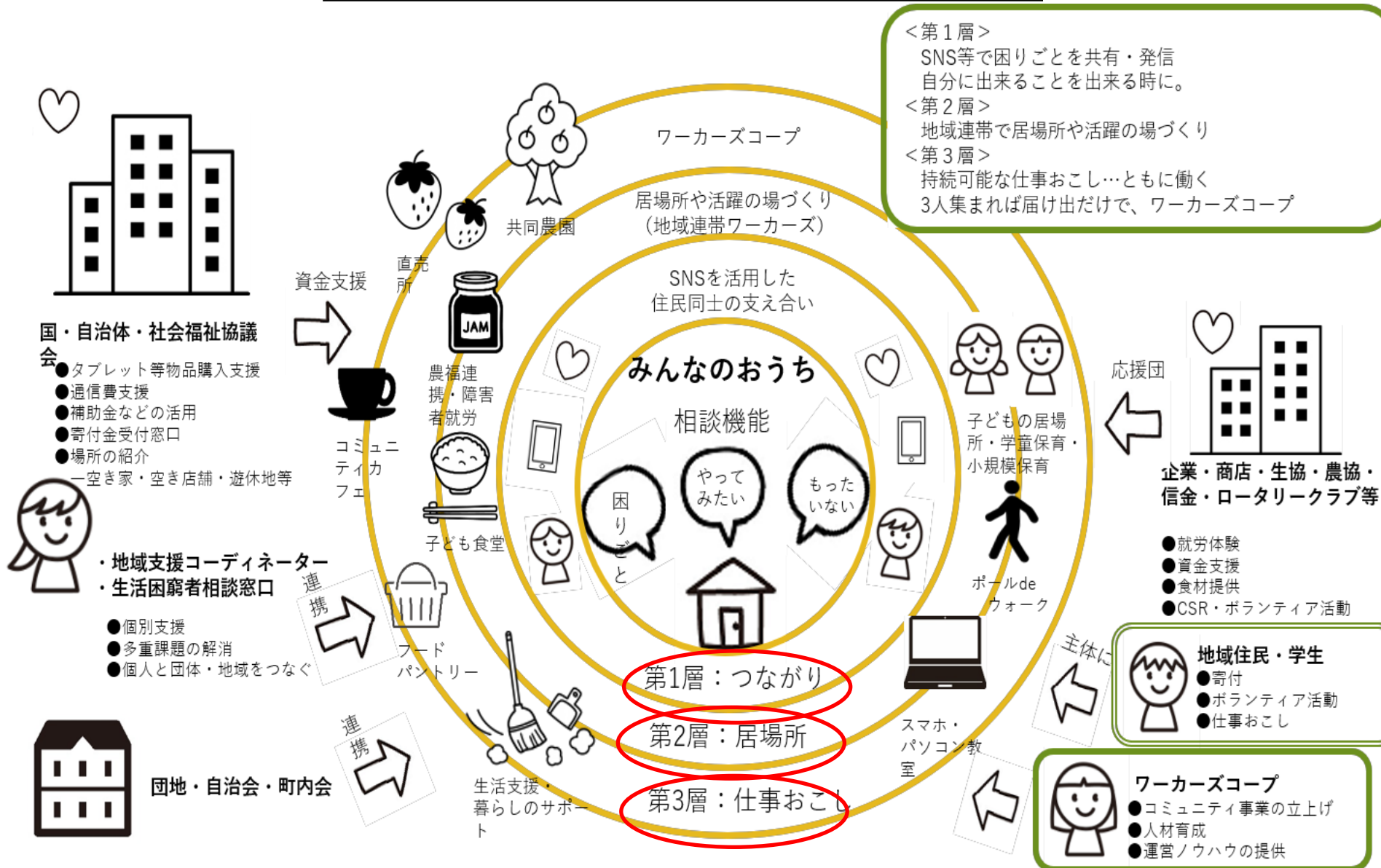
・「6つの重点政策」を横断的に実現する拠点へ

・同様の拠点を5つの地域(総合支所)に。産業自治の視点から「地域計画」にて検討

新たな世田谷区の産業・学びの拠点となり区内経済循環の活性化を実現していく

(出所)世田谷区経済産業部の作成資料

「みんなのうちに(総合福祉拠点)」の概念図

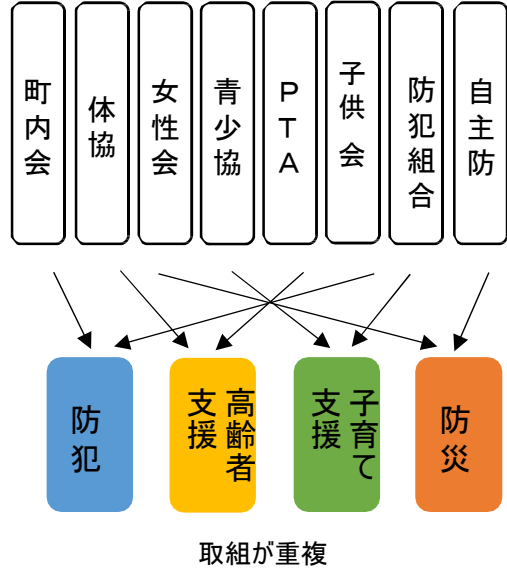


「みんなのうちに」とは、地域の困りごとや願い、一人ひとりのやってみたいことなどさまざまな思いが集まり、それをみんなでカタチにしていく居場所。地域の中にある、社会的な孤立や困窮など課題を解消するために、住民自らが課題を受け止め、担い手となり、安心して暮らせる地域をつくる取り組み

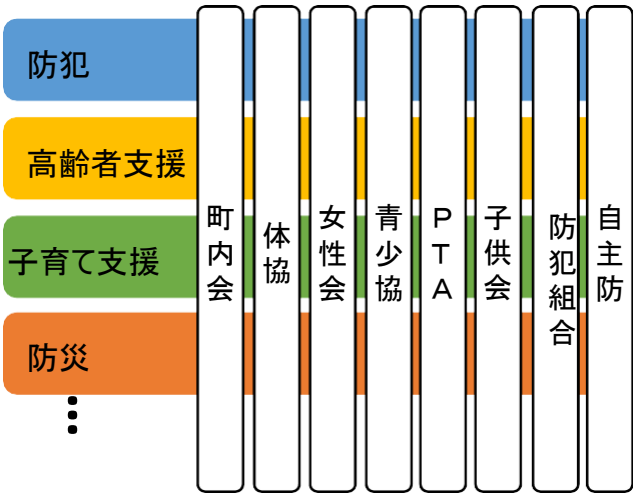
出典：日本労働者協同組合連合会（ワークスコープ）資料「協同組合福祉拠点みんなのうちに実践事例集」より抜粋

地域コミュニティ活性化の方向性⇒広島市協同労働プラットフォーム

これまでの縦割り組織



横串組織(プラットフォーム型)



テーマごとに全ての団体が横串の連携体制をとる

活性化のポイント

- 団体運営**
- 町内会・自治会だけでは対応できない地域の課題の解決に向けて、概ね小学校区単位で様々な分野・世代の関係者が連携し、意見を出し合える場づくり
 - 住民ニーズの把握
 - 地域の将来像の共有
 - 活動計画(まちづくりプラン)づくり
 - 活動資金の確保
 - 活動テーマに応じた役割分担、実施主体の決定
 - 現役世代など若手のリーダーやリーダーを支える人材の発掘と育成
 - ICT活用(オンライン会議、連絡体制、住民向け広報)

活動の担い手

- 地域団体とテーマ性のある活動を行うNPOや協同労働団体、企業、商工会、公民館、学校、地域外の専門人材など多様な主体の連携
- 町内会未加入者を含む幅広い世代の住民交流
- 地域コミュニティの重要性の啓発とまちづくりの当事者意識の醸成
- 町内会の加入促進
- 郷土愛の醸成と将来のまちづくり人材の育成

地域特性

- 地域の特産品、文化・歴史資源を活用したまちづくり
- 都市部・中山間地・島しょ部などの特性に応じた活動

活動内容

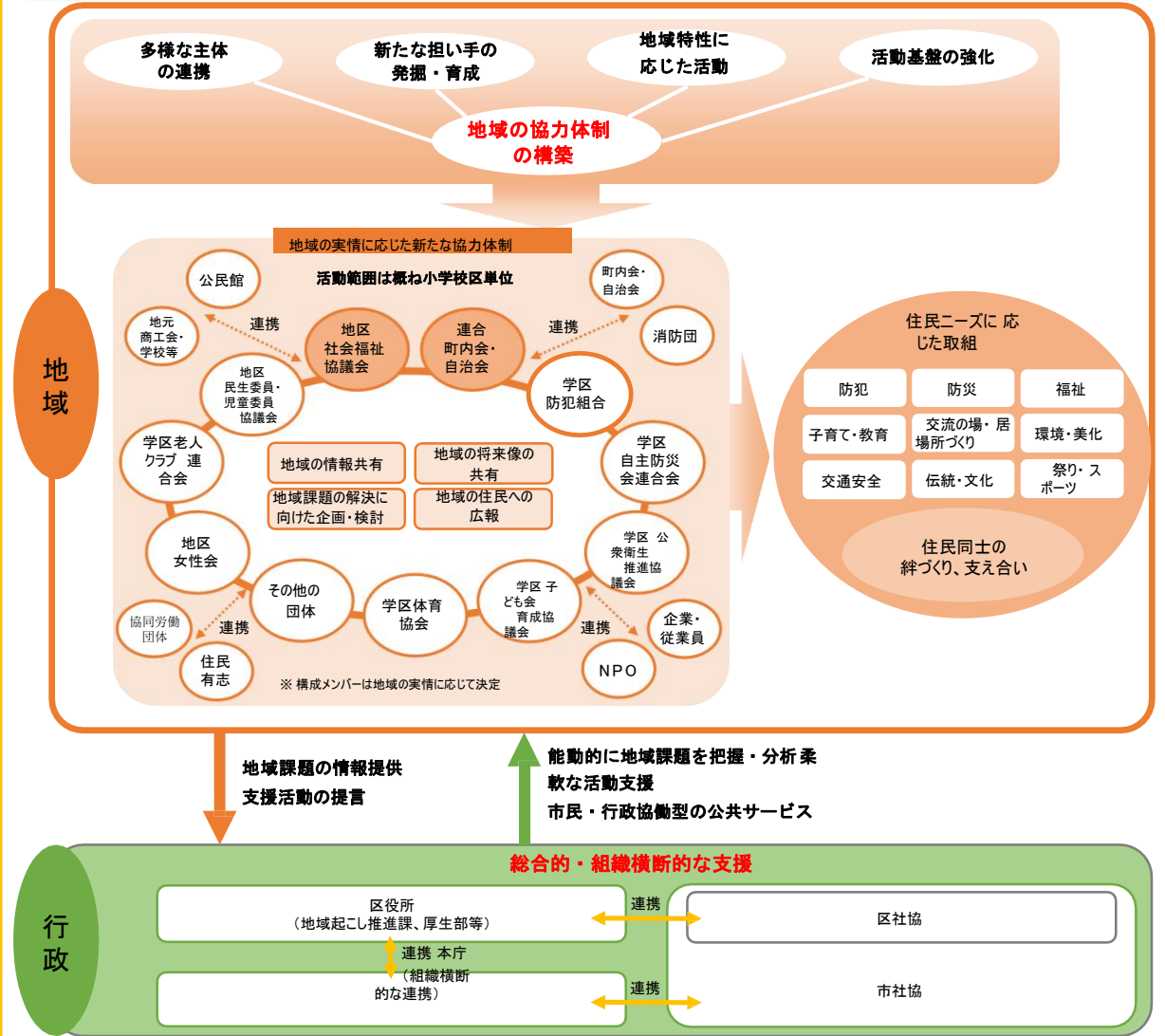
- 地域の誰もが気軽に集まり情報交換したり、居場所となるような地域の活動拠点の運営
- 地域運営に効果的な補助金・助成金の活用
- 街区公園を活用したエリアマネジメント、協同労働の仕組みの活用や有価資源回収等による自主財源の確保
- 防災など住民の関心が高いテーマを中心とした活動
- タブレット端末などでのオンラインの地域の絆づくりなど新たなスタイルの地域活動

行政との関係性

- 地域を代表する組織による行政への地域課題の情報提供や支援活動の提言
- 使いやすい補助金や市の遊休施設の活用への協力等
- 組織横断的な支援
- 地域コミュニティの活性化の視点を持った職員育成
- 地区社協中心、連合町内会・自治会中心など地域の特性に応じた支援
- 地域団体とテーマ型の活動団体(NPO、協同労働団体等)の連携の支援

市民主体のまちづくり

『自分たちのまちは自分たちで創る』



出典：広島市のHP「広島市地域コミュニティ活性化ビジョン」：
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/166795.pdf>

6つの重点
政策をつなぐ
イメージ

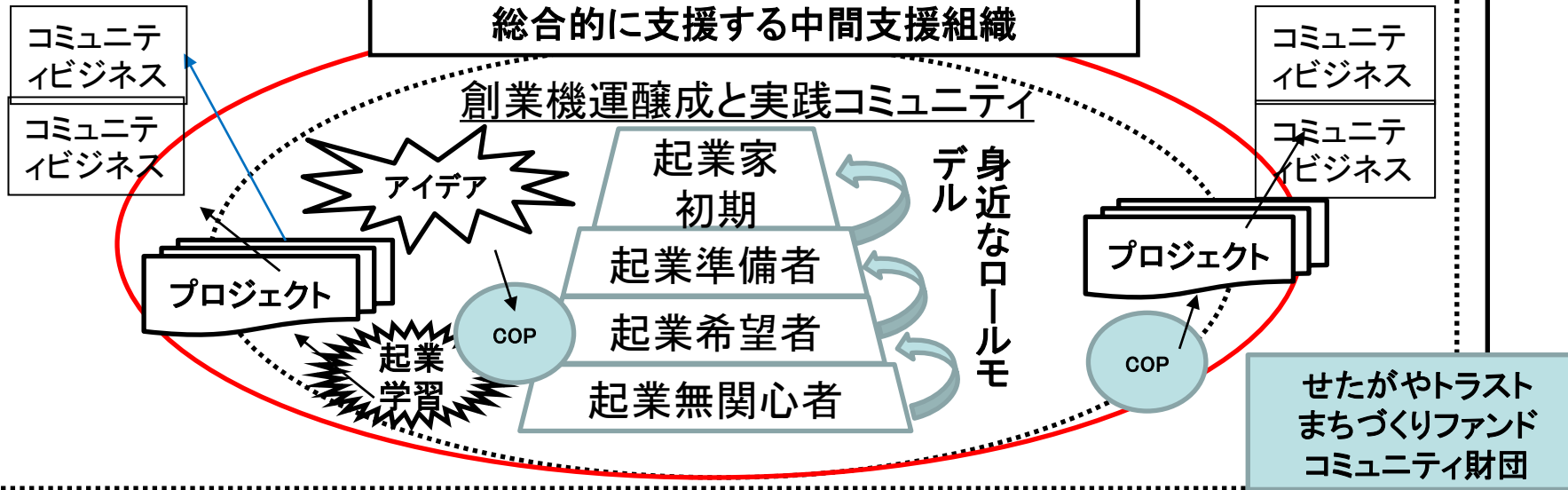
「アントレプレナーシップ」を軸とした自治体産業政策、産業自治

創業機運醸成とコミュニティビジネス創出を促す地域プラットフォーム

地域の多様な課題(テーマ)と「地域の**実践コミュニティ**」

福祉 医療 産業 振興	環境 安全 防災	情報 地域 金融	観光 教育 保育	食 スポー ツ	伝統 工芸 文化 芸術	商店街 中心市街地 まちづくり
----------------------	----------------	----------------	----------------	---------------	----------------------	-----------------------

「地域コミュニティビジネス」を
総合的に支援する中間支援組織



大学

産業支援機関

自治体

地域金融機関

士業(コンサル等)

「実践コミュニティ」: 特定テーマの学習コミュニティ

特性 \ 類型	プロジェクトチーム	会社組織	コミュニティ	実践 コミュニティ
共通目的	特定の目標（職務）の遂行	共通の目標、営利	明確な目標はない （人と人のつながり・交流）	特定テーマにおける学習・知識創造
境界形態	明確 フォーマル	明確 フォーマル	見えない インフォーマル	曖昧 インフォーマル
メンバー	特定職務遂行のため、直接的に役割を果たす人々	マネージャーとその部下全員 （指揮命令系統下の人々）	誰でもなれる 友人・知り合い	特定テーマに関する関心や熱意を共有し、専門的な知識や技能を相互に学習する人々
存続の期間	あらかじめ終了時点が決まっている （プロジェクトの完遂時）	恒久的 （ゴーイング・コンサーン）	継続性がない （いつ始まり、いつ終わるのか不明）	有機的に進化して終わる （相互交流と学習に価値がある限りは存続する）

備考：ウェンガー, E. ほか（2002）『コミュニティ・オブ・プラクティス』をもとに筆者作成

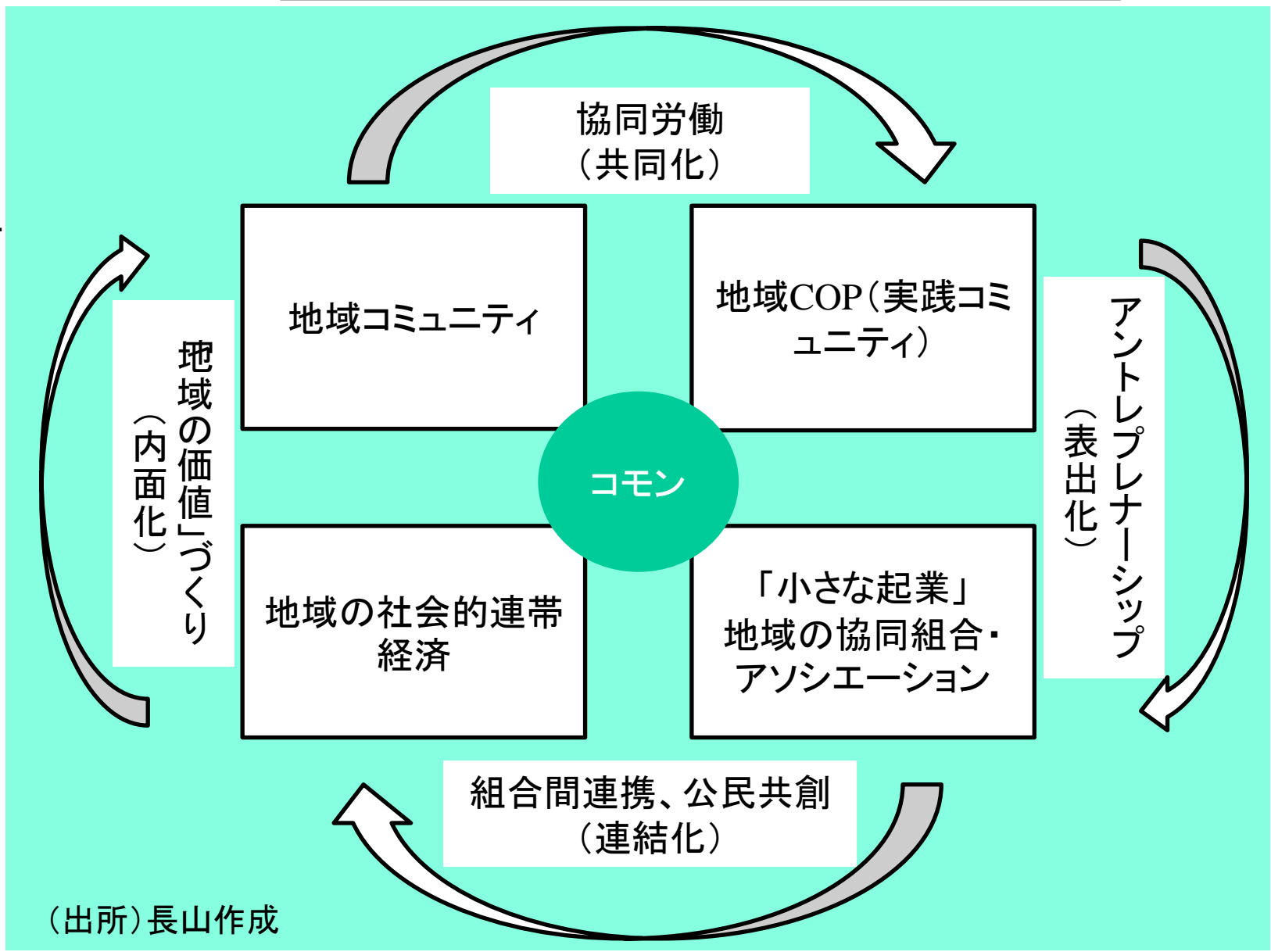
持続可能な仕組み(政策介入)が必要
地域に実践コミュニティを生む基盤(地域学習プラットフォーム)

アントレプレナーシップを軸とする地域づくり
持続可能な仕組み(地域プラットフォーム)形成モデル

「地域の価値」の本源的な部分、商業化されていない「真正性(オーセンシティ)」は、その地域で人々が生きてきたことの積み重ねであり、資本主義的な生産様式で作り出すことのできない歴史や自然や社会と一体となった人々の知恵の結晶。



重点政策をつなぐ共通の理念「ワクワク感の創出」?



(出所)長山作成

地域とは、人間の生活の場。人間は場所ごとに異なる独自の生活様式と文化を生み出す。その人間が社会的・主体的に生きる場(生活の基本的圏域)として地域を捉える。それゆえに、地域とは、自然環境・経済・文化(社会・政治)という3要素の複合体といえる。

Learn
Actively.
Live
Wisely.

